

平成20年度「専修学校を活用した再チャレンジ支援推進事業」
成果報告書

プログラム名	社会人のキャリアアップ教育プログラム		
事業名	地元支援機関と連携したショップ経営などの起業支援プログラム		
法人名	学校法人 コア学園		
学校名	秋田経理情報専門学校		
代表者	児 玉 隆 次	担当者 連絡先	佐久美和之

1. 事業の概要

いままで企業で培ってきたノウハウあるいは趣味を生かしての、ショップ経営などの起業を考えている幅広い世代の人たちを対象に、起業に必要なさまざまな知識、スキルを修得させるための講座を行い、受講生らが企画したビジネスプランに基づいて、空き店舗を利用した模擬店においてそれを実践する。事業の実施にあたっては、あきた企業活性化センター、秋田商工会議所などの協力を得ながら実施していく。

2. 事業の評価に関する項目

①目的・重点事項の達成状況

15名の受講者で開始したが、途中、家庭の事情および、病気により2名が退講した。最後までビジネスプランをまとめられない受講者もいたが、12名が最後まで受講した。講座終了後ただちに事業を立ち上げた受講者もいた。また、講座終了後のアンケートによると、ほとんどの受講者が「満足できる講座内容であった」と回答しており、一応の目的は達成できたと考えている。

②事業により得られた成果

商工会議所などを中心に数多くの創業塾が開催されている中、他の創業塾との差別化を図る意味で「IT講習付」の講座を実施したことは、ひとつの成果であったと考える。さらにチャレンジショップを実施したことにより、講座が本格化したことも大きな成果であった。

明確なアイデア、ビジョンを持ち合わせないまま参加した受講者もいたが、彼らに夢を描いてもらい、働き方や暮らし方についての選択肢を広げるために学び直しの機会を与えたとすれば、それなりに意義のある講座になったと思う。

③今後の活用

ビジネスプランの授業や学生によるチャレンジショップの実施を、今後の経理系学科のカリキュラムに取り入れていきたい。

④次年度以降における課題・展開

今後このような講座を企画する機会があるならば、あるいは専門課程のカリキュラムに取り入れる際にも、カリキュラムの面でもうひと工夫必要かと考える。受講者のアンケートにもあったが、「財務管理」の時間を増やし、「PowerPoint」を使ったプレゼンテーション練習を繰り返し、最後の発表会に持っていくことが望ましいと思う。

3. 事業の実施に関する項目

①履修証明書等

独自の履修証明書を発行した。

②カリキュラムの内容

科目	時間数	内容
オリエンテーション	1	講座についての注意事項
起業の基礎	7	起業の意味と心得、開業までの流れ、個人企業と会社組織、開業資金の調達方法など
マーケティング	9	マーケティングの定義、マーケティングマネジメント戦略、消費者行動、製品戦略など
企業経営政策	3	イノベーション、地域資源の有効活用など
財務管理	6	経営理念、会計の基礎の基礎、STRACなど
労務管理	3	従業員の採用から退職までに必要な法律知識
起業事例紹介	3	起業家による事例紹介
ビジネスプラン	24	ビジネスモデルの紹介、SWOT分析、ターゲットとベネフィット、事業コンセプトの確立など
IT活用	30	Word、Excel、PowerPoint
コミュニケーション技法	3	アイスブレイク、聴き方、話し方など
接客マナー	6	好印象のコツ、接客の言葉遣い、顧客心理の理解、セールストークなど
模擬店販売実習	12	2日
模擬店開設準備	18	3日
成果報告会	15	準備12時間、発表3時間

③講座の実施

(受講者) 男8名、女7名、合計15名

20歳代4名、30歳代3名、40歳代4名、50歳代3名、60歳代1名

(講座実施場所) 秋田経理情報専門学校

(講座実施期間) 平成20年10月6日～平成20年11月6日

(講座環境) PCシステム(WinXP、USB) 17台

LAN(+Hub) 2

プリンタ 1台

プロジェクタ 1台

MS Office2003 17

NOD32 17

上記③のカリキュラムの要領で実施し11月6日の成果報告会をもって講座を終了した。

④支援対象者(受講者)の状況

受講者15名の状況であるが、講座開始の翌日、1名が家庭の事情により、さらにもう1名が途中で風邪をこじらせ退講した。また1名の受講者は最後までビジネスプランがまとまらず成果報告会不参加となった。結果、12名が最後まで受講し、講座終了後1名の受講者が事業を立ち上げた。

(講座についての受講者アンケートの結果) 大変満足8名 やや満足4名 不満0名